積層造形で産学官連携

群馬プラットフォーム設立

モノづくりの高度化に向けた産学官連携の取り組みが群馬県で動きだす。日本ミシュランタイヤ（東京都新宿区）と地元の機械メーカーが中心となって7月下旬に立ち上げる一般社団法人「群馬積層造形プラットフォーム」だ。金属3Dプリンターを活用した研究開発や人材育成を進め、ビジネス面での効果創出を目指す。業種や規模の垣根を越えた〝オール群馬〟の活動に注目が集まっている。（群馬支局長・古谷一樹）

研究開発・人材育成

群馬積層造形プラットフォームが取り組む研究開発や人材育成の中核技術となるのが金属積層造形だ。金属3Dプリンターを使って薄い金属層を積み重ねて造形することで複雑な部品を作製できる。群馬県の主力産業である自動車だけでなく、航空宇宙や医療など幅広い分野で利用が見込める。

「群馬積層造形プラットフォーム」の設立会見に臨む鈴木代表理事（左から2人目）ら

参画企業は現在、共和産業（高崎市）や関東精機（前橋市）、しげる工業（太田市）など計8企業を増やしていく。

活動の中心は研究開発や人材育成。日本ミシュランタイヤが太田市に持つ研究開発拠点に金属3Dプリンターを設置。ミシュラングループの金属積層造形技術のノウハウや教育プログラムを活用しながら、研究開発プロジェクトや人材育成に取り組む。

同プラットフォームの代表理事を務める共和産業の鈴木宏子社長は「新しい材料や設計、造形の手法を開発して知的所有権を共同で保有し、世界に発信していくオープンイノベーションを目指す」と強調。精度やコスト、納期の面でより付加価値の高い部品開発などにつなげる効果を狙っている。

人材の育成で知見がさらに深まり、関連企業の集積が進むことへの期待もある。同プラットフォームの設立に尽力した日本貿易振興機構（ジェトロ）群馬貿易情報センターの柴原友範所長は、「将来はグループとして、世界中のさまざまな業界から受注できる体制を構築できる可能性がある」と指摘する。

日本初の官営器械製糸工場「富岡製糸場」を生んだ群馬県には、今でもモノづくりのDNAが脈々と息づく。一方で基幹産業の自動車分野では、外部環境の急速な変化への対応が待ったなしの状況だ。

既存のモノづくり技術とデジタル技術を組み合わせてイノベーションを目指す同プラットフォームの成果は、地域産業の変革や振興にも大きな役割を担いそうだ。

金属3Dプリンター活用 モノづくり高度化

板・線バネ向けHP制作

天伸 機動的にオンライン営業

【千葉】天伸（千葉県柏市、小宮山記祥社長）は、全社を挙げて機動的にオンライン営業できる体制を構築する。第1弾として間接部門を含めて全部門が携わり、板バネと線バネ営業に特化したホームページ（HP）を制作した。HPからの引き合いにウェブ会議システムを活用し、最適なメンバーで迅速に対応することで新規受注に結び付ける。

マルチフォーミングを導入することでコスト低減が可能に

HP「特殊板ばね・線ばね製造.com」（https://itabane-senbane.com/）の制作には営業に加え、総務、設計・開発、製造と全部門が携わった。コロナ禍で業績が伸び悩む中、新規取引先を開拓するとともに、全社でピンチを乗り越える取り組みを進めて組織力を強化する狙いもある。

HPでは、バネメーカーとして58年間にわたって蓄積してきた技術を活用し、取引先が進める製品の設計・開発段階から携わり、最適なバネを提案できることを訴求する。またマルチフォーミングを導入することで、材料の歩留まりと生産性をアップし、コストを低減可能な点も強調する。

小宮山社長によるトップセールスなど従来の対面営業と組み合わせ、ニューノーマル（新常態）に対応できる営業体制を実現する。今後、マルチフォーミングを中心とする加工関連設備を増強し、大口受注にも迅速に対応できる体制を整える。

天伸の2020年9月期の売上高は新型コロナウイルスの影響で落ち込んだが、21年9月期は3億7000万円に回復する見通しだ。将来は今回の取り組みなどにより5億円を目指す。

品質管理センター増床

キャディ 半導体製造装置 需要増に対応

キャディ（東京都台東区、加藤勇志郎社長）は関東品質管理センター（千葉県船橋市）を増床した。物流機能や恒温室、クリーンブースなど設備を強化し、半導体製造装置などの需要増加に対応する。延べ床面積は従来比2・8倍の約1650平方㍍、投資額は6月の関西支社兼品質管理センター（大阪市港区）の移転拡大も含め約1億円。

同施設は2020年10月に現在地に移転・開設し、その後9カ月で人員は2倍、平均検品数は約3倍に増加。さらに旺盛な需要に対応し、従来2倍の検査処理量を実現するため増床することにした。

キャディは部品加工のパートナー工場と提携し、同社が運営する製造業向け受発注プラットフォームを通じて板金、機械、製缶加工や機械・装置の加工部品の一括受注を手がける。品質管理センターでは加工部品の検査や梱包（こんぽう）、発送を行う。

20年9月に後工程の装置組み立てにも対応し、顧客単価が前年比10倍に上昇しているという。

趣味の釣りビジネス化

レンタルボート用品製販

フジムラ製作所

モノづくりの街として知られる埼玉県川口市の板金業者が、新たなビジネスを始めた。ブラックバス釣りなどで使うレンタルボート用品店だ。店主は精密板金加工を得意とするフジムラ製作所の藤村智広社長。全くの異業種への参入だが、本業にも好影響を与えているという。（さいたま・大城蕗子）

4日にオープンしたデジタルストラクチャーの前に立つ藤村社長

4日にオープンした店の名前は「デジタルストラクチャー」。取り扱う製品ブランドも同じ名前だ。フジムラ製作所本社から徒歩3分ほどの場所に立地し、藤村社長自らが店頭に立つ。

ショップをはじめた（藤村社長）が、思いのは、10年前に社員に誘われてバス釣りにかけたことがきっかけ。付き合いで始めたが、釣れたバスの重量を競ううち競争心が強い性格が刺激され、のめりこんだ。

そのうちバス釣りで利用するレンタルボートの周辺グッズを自作するようになった。あくまで「自分が使うために作っていた」舗オープンに至った。

主力製品の「DSショートマウント」は、レンタルボートを電力で動かすためのアタッチメントだ。メーカー問わず全てのボートに取り付けできる。さらに水中のエレクトリックモーターを引き上げるロープが切れても、手で簡単にロックを外し引き上げられるのも特徴。この構造は現在特許を申請中だ。

製造に向け300万円を投資して専用金型を本社工場に配備した。手始めに100ロットを製作。フィールドテストを複数重ね十分な安全性を確認したのち、5万5000円（消費税込み）でオンライン上で先行予約を始めると、1週間で完売する人気となった。

思わぬ副産物も生まれた。デジタルストラクチャー製品を通じフジムラ製作所を知った新型コロナウイルス感染症拡大で〝密〟を避けるレジャーとして釣りが人気を集め、レンタルボートの需要も高まっている。こうした追い風も受け「2年後には年間1億円を売り上げる」と夢が膨らむ。

工作機械部品加工の依頼など本業にもつながっている（店内で商品を紹介する藤村社長）

自作グッズ 評判呼び外販

企業誘致オンラインセミ開催

福島市、支援制度紹介

【福島】福島市は「福島市から実現するニューノーマルの企業立地」をテーマにオンライン企業誘致セミナーを開催した（写真）。木幡浩市長や現地進出企業のトップなどが福島市の立地優位性を紹介し、全国から約140人が参加した。

まず同市をドラマ仕立てで紹介するショートフィルムを上映。木幡市長が支援制度をPRしたのに続き、トークセッションでは福島キヤノン（福島市）の相馬克良社長やキャラクターグッズのOEM（相手先ブランド）生産を手がけるサンワ（埼玉県戸田市）の山川景子社長が立地企業の視点からみたメリットなどを紹介した。

参加者からは立地後の支援制度や、8月末まで予約を受け付けている福島おおざそうインターエ業団地への申し込みに関する質問などが相次いだ。

8日に商談会 オンライン開催

山形県振興公社

【山形】山形県企業振興公社（山形市、平山雅之理事長）は8日に「2021山形県広域商談会」を開く。製造業者の受発注取引の拡大が目的で33回目。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため昨年に引き続きオンラインで開催する。

県内外から発注企業89社、県内を中心に受注企業189社が参加予定。発注企業の初参加は14社。2月にオンラインで開催した取引商談会と比べ、発注企業が29社、受注企業が43社増えた。事務局では「オンラインにより福岡や岐阜など遠方からも参加しやすくなった。地元企業との接点機会としたい」としている。

8日に参加できない受発注企業に対して相互に商談できる期間も設けた。問い合わせは同公社（023・647・0662）へ。

情報プラッシュ

◆「渋沢栄一」物産展
東京商工会議所

7、8の両日に東商初代会頭を務めた渋沢栄一がテーマの物産展「渋沢栄一ゆかりの地物産展」を東商1階多目的スペース（東京都千代田区）で開催する。時間は11―18時。渋沢栄一にゆかりのある地域の農産品や食品や関連商品など約120点を販売する。埼玉県深谷市、東京都北区飛鳥山おみやげ館、江東区、板橋区、長野県上田商工会議所、北海道十勝清水町などが出展する。

◆海外知財対策セミ
日本貿易振興機構（ジェトロ）横浜貿易情報センター

12日14―16時に、オンラインで「はじめての知財対策セミナー～海外での商標登録から代理店契約まで」を開く。横浜商工会議所、神奈川産業振興センターと共催。工業所有権情報・研修館（INPIT）の久永道夫海外知的財産プロデューサーが中小企業向けに、海外ビジネスでの技術流出防止・模倣品対策、契約時の留意点などを解説する。定員80人、参加無料。申し込みは7日までに同センターホームページの「イベント情報」で。

ラウンジ

小林さん

脱炭素に役立つ

▽…「20年ぶりに賞を頂けた」と喜ぶのは、エイブル（埼玉県川越市）社長の小林信彦さん。新型の排水処理装置が日本産業機械工業会の「優秀環境装置」の一つに選ばれた。

▽…受賞したのはほとんどの食品工場で利用可能な「高付加メタン発酵処理装置」。油やでんぷんなどの発酵分解性を高め、「得られたメタンガスを発電に再利用できる」のが大きな特徴だ。

▽…小林さんは「排水処理は企業もあまり予算をかけたがらない」としながらも、「脱炭素社会に役立つ装置として認知度向上」を目指す決意。（川越）

2021 洗浄総合展
PAN-EXHIBITION FOR WASH AND CLEAN 2021
洗浄が拓く、モノづくり日本。
出展募集中
Wash & Clean
会期：2021年12月1日水～3日金
会場：東京ビッグサイト 西ホール
主催：（公社）日本洗浄技能開発協会 日本産業洗浄協議会 日刊工業新聞社

日本最大級の
産業洗浄専門展
詳しくは公式 Web サイトから 洗浄総合展 検索
https://biz.nikkan.co.jp/eve/senjyo/

■出展分野
産業用洗浄
高圧洗浄 、洗浄装置・システム 、ファインバブル 、洗浄剤 、周辺機器 、
回収・再生装置 、評価/検査/測定 、受託 、NEW 水処理 、その他
乾燥・静電気対策
送排風機 、乾燥炉 、帯電防止剤・機器 、ホコリ対策 、ヒーター 、乾燥剤 、加湿装置 、その他
防錆・防食
防・除錆剤 、防錆油 、防錆フィルム 、防湿コーティング 、腐食防止剤 、
防錆紙・シート 、剥離関連機器 、その他

■出展料金（1小間あたり・税込）
1小間約9㎡／間口2.97m×奥行2.97m×高さ2.7m ※屋内小間のみとなります。
≪主催団体会員企業≫
1～4小間・・・・・・・・330.000円（税込）
5～7小間・・・・・・・・286.000円（税込）
8小間以上・・・・・・・253.000円（税込）
≪一般企業≫
1小間・・・・・・・・352.000円（税込）

申込締切 2021年 8月10日（火）

オンライン展の開催・実施方法について
2021年はリアルおよびオンラインでのハイブリッド開催を予定しております。 オンラインでの開催時期・期間・料金体系等は、 決定次第、 公式 Web サイト等でご案内させていただきます。

同時開催展
■ VACUUM 真空展
■ SAMPE Japan 先端材料技術展
■ スマートファクトリー Japan
■ 高精度・難加工技術展
■ 表面改質展

出展お申込み・お問い合わせ 「2021 洗浄総合展」事務局（日刊工業新聞社 総合事業局 イベント事業部内）
E-mail：autumnfair@media.nikkan.co.jp TEL：03-5644-7221
2021.8.10